

第6回 GCM 研究会の開催計画について

➤ 震災に貢献しうる研究会活動をめざして

このたび1000年に一度とも言われるほどの東日本大震災が発生し、東北地方を中絶に東京も含めた広域にわたり未曾有の大災害を被りました。

広域医療連携を標榜するGCM研究会では、今度の第6回GCM研究会のチャッチフレーズを「震災に貢献しうる研究会活動をめざして」と銘打ち開催することにします。

これを受け、以下の2つのパネル討論を企画しております。

- (1) 災害時におけるクラウドの必要性和役割
- (2) 災害時におけるモバイル端末利用の機能と課題

まず(1)については、今回の震災で、住基ネットのデータが失われたり、レセプトデータが失われたりとのことで、クラウドによるデータ保存の重要性が実感させられています。

これまでGCMでは、いち早くクラウドの研究・開発に取り込んでおり、あらためてクラウドの必要性や役割について、ベンダー、官の研究会の代表を招き、GCMの研究者とともに討論します。

一方(2)については、これまでGCM研内に端末分科会も作り活動しておりましたが、今回は特に災害時を主題に、モバイル端末の機能・課題などについて討論します。

災害時には、広域にわたり通信機能の麻痺、情報不足などが発生し、混乱を招きました。また、救護、救急などの活動での生体情報計測なども十分機能していたとは思えません。このような課題において、専門家を中心にモバイル端末の機能、役割について議論します。

第6回広域連携医療ネットワークシステム研究会開催プログラム(Ver. 1.2)

キャッチフレーズ:「震災に貢献しうる研究会活動をめざして」

司会: 秋本眞喜雄先生、久保田光博先生

- (1) 日時: 2011年6月1日(水) 13:00~17:00
- (2) 場所案: 東海大学 高輪校舎1号館2階1203教室
(〒108-8619 東京都港区高輪2-3-23) JR・京浜急行「品川駅」高輪口より徒歩18分。東京メトロ南北線・都営地下鉄三田線「白金高輪駅」から徒歩8分。都営地下鉄浅草線「泉岳寺駅」A2出口より徒歩10分。
地図:<http://www.u-tokai.ac.jp/about/campus/takanawa/index.html>
- (3) 参加費; 1,000円(講演予稿集一冊を含む)
- (4) プログラム:
 1. 開会挨拶 辻秀一実行委員長 13:00~13:05
 2. 総会 周藤安造代表 13:05~13:15
 3. NPO申請報告 周藤安造代表 13:15~13:30
 4. 基調講演(1) 13:30~14:00
【震災時における各無線システムの特徴とアプリケーション例】
日本無線株式会社ソリューション事業本部民需ソリューション
プロジェクト 斉藤 等課長
 5. 休憩 (iPad デモ含む) 14:00~14:30
 6. パネル (1) 広域災害時におけるモバイル端末利用の機能と課題 14:30~15:30
 - ①携帯カルテ (株) アイジョス・佐藤晃社長
 - ②在宅医療支援 東海大学・辻秀一教授
 - ③見守り支援 (株) ビーオーピー・浅井邦之社長
 - ④指名発言者によるコメント; 前田憲寿教授 (東京工科大学) 他
 7. 基調講演(2) 15:30~16:00
【他業界に見るクラウド活用事例とクラウドが選ばれる理由】
セールスフォース (株) シニアプリンシパルアーキテクト 内田 仁史氏
 8. パネル (2) 広域災害時におけるクラウドの役割と課題 16:00~17:00
 - ①地域医療連携クラウドの開発と課題 コアーズ (株) 佐々木 仁最高顧問
 - ②患者サービスクラウドの役割 東海大学 野地 保教授
 - ③クラウドコンピューティングと分散コンピューティング — 広域災害における有効性
(株) フィジオ、電子情報通信学会 SWIM 研究専門委員会委員長 堀米 明氏
 - ④指名発言者によるコメント; 佐藤均教授 (東京医療保健大学) 他。
 9. 閉会 次期実行委員長
- (5) 懇親会 17:15~19:00

以上